

アスリートの受傷経験とマインドフルネス特性に関する研究のお知らせ

帝京大学スポーツ医科学センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2024年4月17日 ～ 2026年03月31日

〔研究課題〕

過去のスポーツ傷害による競技離脱経験が現在のマインドフルネスに与える影響

〔研究目的〕

アスリートにとって怪我は身体的にだけでなく、心理的にも大きな影響を与えます。近年ストレスや心理的疲労への効果が認められるマインドフルネスがスポーツ界でも注目を集めていますが、その形成のメカニズムに関する研究は少ないのが現状です。本研究ではアスリートのマインドフル特性に注目し、受傷経験の有無によるマインドフルネス特性の違いを検討し、受傷経験がアスリートのマインドフルネス形成にどのように関係しているかを明らかにし、リハビリへの導入に向けた基礎資料を得ることを目的としています。

〔研究意義〕

受傷経験がマインドフルネス特性に影響を与えているかどうかを明らかになることにより、受傷アスリートや健康なアスリートへのマインドフルネス介入を行うことの利点をより明確に示すことができます。今後、心理サポートの手法の一つとして導入し、受傷アスリートに対してはリハビリプログラムの一環として、そして健康なアスリートに対しては怪我の予防の一環として導入ができることを期待しています。

〔対象・研究方法〕

対象者は以下の1～2の条件を全て満たす選手

- 1、2021年度～2023年度に入学した
- 2、本学指定強化クラブに所属

部活動サポート目的で収集していた選手のマインドフルネス特性データおよび傷害外傷記録のデータを利用し、その影響や関連性を検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学スポーツ医科学センター

〔個人情報の取り扱い〕

資料は加工を行い個人が特定できないようにします。資料はパスワードでロックされファイルとして外付けHDDに保存し、研究責任者、情報の取扱者及び責任者(松永悠希)のみのアクセス可能とします。研究期間終了後、研究に用いた資料は「帝京大学・帝京大学短期大学における研究データの保存等に関するガイドライン」に基づき、原則として、当該論文等の発表後10年間保管し、その後全て破棄されます。

本研究で得られた情報は、将来別の研究に用いられる可能性があります。

対象となる選手で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 松永悠希 職名 助教

所属：帝京大学スポーツ医科学センター

住所：東京都八王子市大塚 359 番地 TEL：042-690-5588

(代表) [内線 3785]